

七尾城山みち No. 3

2006. 7. 26

「七尾城山を愛する会」ガイド

不動滝は・・・？

多根に向かう道を飯田工業の所で脇道に入る。それが大谷川沿いの林道藤野線。入るとすぐに大谷川が近づき空き地に出る。大谷川を渡ってそこから始まる支流を詰めていく。いくつかの小さな滝があり、崩れ落ちた木々や土砂で歩きにくいところもあるが何とか少しずつ越えたと平らな川原となる。その先で流れが分かれ、左側を詰めていくと不動滝に出合う。水量は多くはないが枯れることはない。滝に向かって右側の壁の祠にその名の不動明王が祭られている。誰がいつ頃残したものかは知らない。

この不動滝は二の丸の中腹から流れ出る水がその源流で、以前には安寧寺跡からの道が整備され、旧道にも不動滝の説明が立っていた。今はその道も朽ちた階段や垂れ下がったロープ、ゴミ籠などがかすかな名残を残しているにすぎない。川に近づくにつれ道は完全に崩れ果ててしまっている。

晴れ間の見られた7月のある日不動滝に出かけました。安寧寺跡の杉木立に沿って下り道を歩きました。道をふさぐ笹竹や草、蔓を刈り払いながらなんとか河床まで下りて、崩れ落ちた木々と土砂に足を取られながらも滝の下に近づきました。

今までの長雨が、谷筋の木々や土砂を少しは流してくれているのではないかと期待していたのですが、今のところあまり変化はないようです。



大門道を辿る

大門道は七尾城にとって重要な道であったと思われませんが、昭和35年の開拓道路の開通と自動車道（県道城山線）により寸断されてしまった。さらに、能越自動車道の工事が始まってその痕跡は消えてしまう危機にあります。

5月14日に矢田町大門の八幡神社に集まったのは会員7名で、大門道の軌跡を辿りました。藪を掻き分け、杉の木立を眺めながら先日建てた『古道 大門道』に到着。杉林と雑木林の境に道が続き自動車道と交錯します。展望台遊歩道の小高い尾根は「物見塚」で、コンクリート製のベンチがあり、付近の豎堀跡の写真を撮って展望台まで上り着きました。休憩後、昨年度上った隠し道を下りました。

城山にはまだ数多くの山道があります。「七尾城山を愛する会」としては、それらの道が記憶から消えてしまわぬ前に記録に残したいとこれからも歩きたいと考えています。